

# 花みずきだより

十一月からの新しい広告はもう  
ご覧頂きましたか。  
虹のような帯の中から、ちよつと遠  
慮がちにのぞいている

「あ・り・が・と・う」  
の五文字。

実はこの虹の帯は、ともに歩んでき  
た日々を表しています。

故人様と過ごしてきた思い出の  
日々です。

そして、その日常の中で、声に出し  
て言えなかった言葉、忘れていた言  
葉、忘れてはいないけど、照れくさく  
て言えなかった言葉が「ありがとう」で  
はないでしょうか？

そして、又、故人様も…

花みずきのおくりびとは、いつぱいの  
「ありがとう」を大切に、

感謝の気持ちで満ち溢れたお別れ  
の儀のお手伝いをさせて頂きたい、  
と願っております。

「親類にあたる方が亡くなったので、迎えに来てくだ  
さい。」と突然の警察からの電話。亡くなった方は自  
分が幼少のころに田舎を出て、数十年来会ったこと  
もない人だとしたら、あなたはどうか思いますか？

## 突然の訃報

### 故人は…

お迎えにお見えになった喪主様は明らかに戸惑っ  
ておいででした。

私どもが承る葬儀の中には、ご身内様がどなた  
もいらつしやらず、私達だけでお見送りする場合も  
あります。今回の様にご身内様とお別れが叶う方  
は、不適切な表現かも知れませんが、幸せなのかも  
しれません。お骨にはなっておられますが、ご親族  
様と共に、郷里に帰る事ができるのです。

ただ、ご親戚にあたる喪主様にはお身内様の死  
に実感がありではありませんでした。

故人様を会館へお連れして、どこかよそよそしい  
喪主様とご家族の皆様と納棺に臨みました。どん  
なお式でも、納棺をするところから、旅立ちの準備  
が始まります。ご納棺では、なるべく多くの方に  
お集まりいただき、できるだけお着替えなどのお手  
伝いをして頂くようにしています。お式の最後に  
棺の蓋を開けてもう一度だけ、故人様にお別れの  
言葉を伝える事ができますが、故人様のお体に触  
れたり、手を握ることができるとは、ここで最後にな  
ってしまうからです。

## 2010年 冬号



喪主様が叔父様を見つめるまなざしは、まる  
で、叔父様と自分との他生の縁を探しているかの  
ようでした。

「これを一緒に入れてあげてもいいかな？」  
喪主様がそう言いながら、差し出されたのは、警  
察署で預かった遺品の数々でした。喪主様の戸  
惑いが、遺品の処遇にも現れている気がしまし  
た。

## 心繋ぐノート

そのお品の中に一冊のノートがありました。ノ  
ートをそのまま収めようとされたので、

「せつかくですから、ノートを開いて叔父様にご覧  
頂いたら如何ですか？」とお伝えいたしました。

何気なく開いたページには、叔父様が三十年程  
前に郷里を旅立つ時にご友人から頂いた寄せ書  
きが書かれていました。大阪の会社に就職され  
る際は、希望に満ちたご出立だったのでしよう、  
見開きページに激励の言葉が溢れていま  
した。当時の頃と思われる写真も一緒に出てき  
ました。



「ああ、この会社から大阪に転職してがんばっていたのか…  
でも結局その会社も辞めてしまったと聞いた気がするな…。  
それから今まで苦労していたんだなあ…。」この寄せ書き、  
大事に持っていたんだなあ… 今更ですつと…」  
一冊のノートが故人様とご親族をしっかりとつなぎとめ  
てくれたのです。

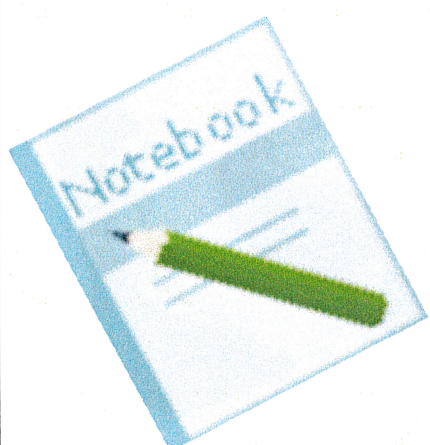
ご家族様との今生のお別れの始まりである納棺の儀の場  
で、たくさんの方とお会いしてまいりました。

ドライアイスが当たると寒いだろうと心配するご家族  
死化粧を施した姿にまるで寝ているようだと思ふ人  
棺の中に故人の好きな本や食べ物や写真を納める方  
棺の傍をずっと離れない人  
傍らでぼんやりと中空を見つめている方  
ただただ、泣き続ける人

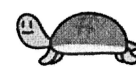
故人と同じ部屋に居たがらない人  
きれいなお姿を写真に収めようとする人  
なぜ棺の中で寝ているのかを尋ねるお孫さん  
故人にキスをする彼氏  
旅支度が終わった故人にいつまでも謝り続ける姉  
亡くなってしまったことを涙ながらに怒る父

故人と二人きりでお別れをする夫  
お別れに際し、悲しみをじつとこらえている兄  
故人の思い出をずっと話している母  
ひたすらに念仏を唱える祖母

さまざまなお別れに立ち会ってきた中で、一番たくさん出  
会ってきたのは、安らかに眠る故人に向かい感謝とねぎらい  
の気持ちを伝える皆様でした。故人様とご家族様のかけ  
がえのない瞬間となる納棺の儀をこれからも大切にお手伝  
いさせて頂きたいと思っております。



# スタッフ紹介



入社前に私が描いていた葬儀社のイメージといえば、御葬式だけをしているのかと思っておりました。でも実際は、いつでも要請に応じられるようにと会館や寝台車の清掃をしたり、祭壇や幕の手入れをしたり、どんな相談にも対応できるように各宗派についての勉強や、福祉の申請手続き、葬儀が終わった後の手続きに関してなど覚える事が本当に沢山でした。



納棺に取り組む亀島

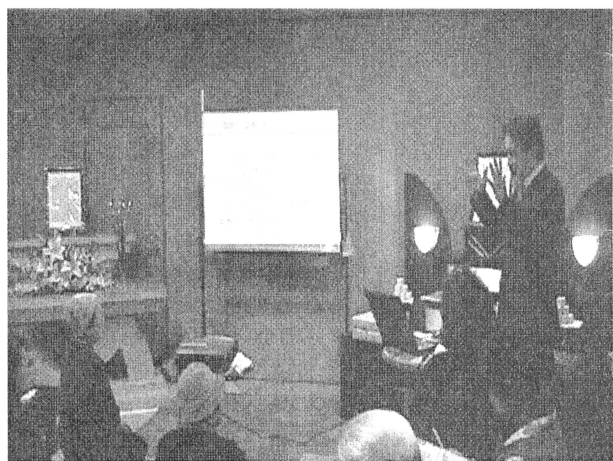
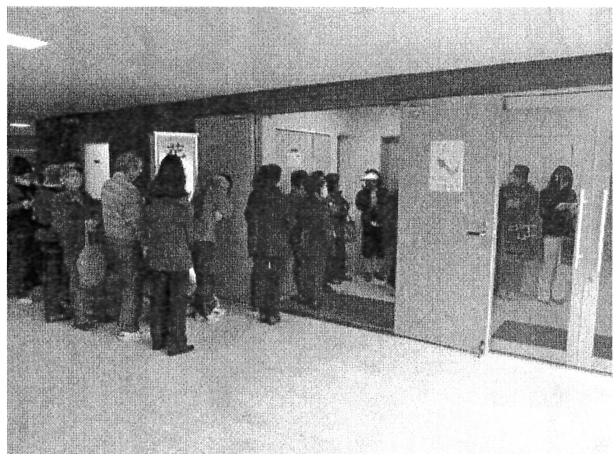
葬儀に関する事など全く知らず先輩方に質問してばかりで、勉強したメモを手離せない状態でした。今はその頃と比べると質問の回数は減りましたが、まだまだわかっていない事が多いと思います。プロとしてお客様からの質問にすららとお答えしたいという願いで、一生懸命本を読んだり、インターネットで文献を探したりして努力しています。現在、セレモニー須田に入社して二年半が経ちました。葬儀をさせていただき、色々な方のお別れに立ち会ってきました。私自身、過去に親族の最後を看取り、葬儀に参列した経験があります。

その際は病院で亡くなった時の印象が強すぎて、通夜・葬儀・お別れ時と、すごく悲しんでいたのですが、葬儀の内容は実際ほとんど覚えておりません。皆様の中にも私のような経験をされた方がいらつしやるのではないのでしょうか？その当時は私自身、葬儀とは記憶に残らないものぐらいにしか思っていないませんでした。

現在、葬儀を担当させていただく立場になって思うのは、病院で亡くなった時点で私自身のお別れがすんでいたのではないかとことです。お亡くなりになった方とのお別れの瞬間は本当に沢山ございます。私の様に病院でお別れをしてしまう方もいらつしやれば、最後のお花を手向けるとき、火葬場にて釜の扉が閉まる瞬間や、通夜の段階や式の最中、もしくは旅支度・納棺の瞬間かも知れません。どの瞬間も大切なお別れの場になりうるかと思えます。

亀島祥平

# 第四回内覧会



寒い中たくさんのご来場をいただき、誠にありがとうございました。今回初の試みである勉強会にも多くの方にご参加頂き、皆様のお葬式への関心の高さが伺えました。

3月28日には第4回フリーマーケットを開催予定です。お楽しみに！

# 納棺の儀

「納棺の儀」とは、亡くなられた方に仏衣にお着替えいただき、顔剃り、化粧などでお顔を整えて、お棺にお入り頂く儀式です。

昨年九月に公開され、アカデミー賞を受賞した「おくりびと」のおかげで、今では「納棺師」ひいてはこの「納棺の儀」の存在を知る方は多いと思います。しかし「納棺」と一言に言っても、大きく

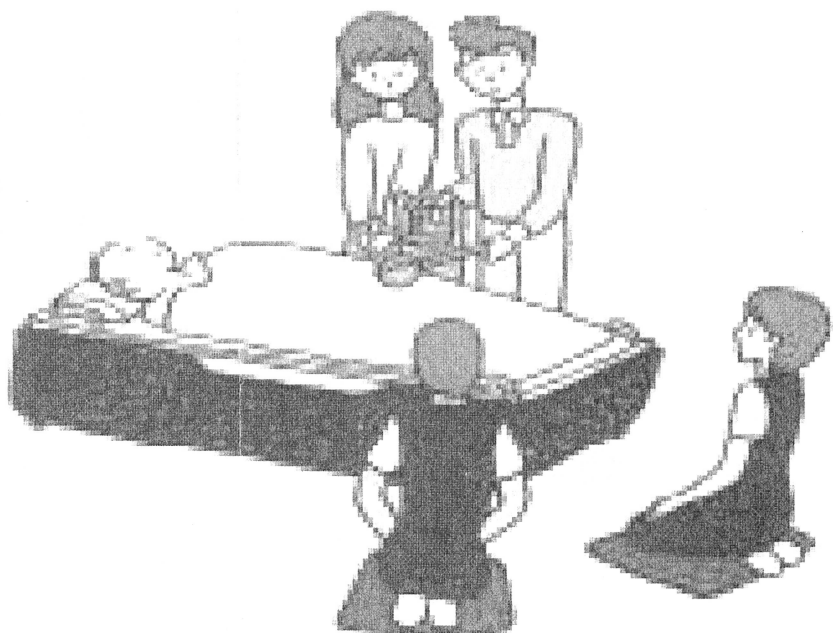
- ・ 清拭
- ・ 旅支度
- ・ 納棺

の三つの行程に分けられます。

清拭とは、故人の手足、顔、体などを拭き清めることであり、病院で亡くなられた方の場合には納棺を始める時点で既に終わらせていることもあり、また、最近では湯灌といって移動式の浴槽を用いて故人に最後のお風呂に入らせていただくことも出来ます。お風呂が好きだった方、長い入院生活でお風呂に入りたくても入れなかった方、そのような方にゆつくりと湯船に浸かっていただくのは、残されたご遺族にとって何より嬉しいことのように、大変喜んでいただいております。

そして旅支度とは、その名の通り納棺にあたっての旅立ちの準備であり、故人には仏衣という白い着物に着替えて頂きます。旅支度を終えられた故人に棺の中にお入り頂き、綿花を用いてお顔の周囲に飾り付けを施し、納棺の儀が終了いたします。

いずれの行程におきましても、納棺とは故人の死出の旅立ちの準備をする場であり、あくまでも亡くなられて動く事の出来ない故人に代わって執り行うもので、本来は家族・親族の皆様でおこなうものでした。(しかし、近年では納棺の経験・心得のない方も多く、又、衛生面・安全の観点から、葬儀社が代行することが増えております)



セレモニー須田では、これら納棺の儀における一連の手順を、故人と親族のお別れの機会の一つと捉え、清拭の際に故人の身体を拭き清めていただいたり、旅支度の際の足袋、脚絆(すねあて)、手甲などをお着せいただいたり、納棺の際にお棺にお入りいただく故人へのお手添えなど、故人との最期の時間を共有することで在りし日の故人の姿を思い返し、お別れのための心の準備をしていただくために、親族の皆様にお手伝いいただいております。

## 編集後記

記事作成が自分の葬儀に関する知識を深める良い機会となりました。今後も精進していきます。  
この花みずきだよりをよりよいお便りにするため、皆様からご意見・ご要望をお待ちしております。



亀島



畑中



鈴木